



2026年5月期 決算説明会

2026年7月27日

三光合成株式会社
[東証 プライム市場 7888]





I 会社概要

II 2026年5月期 決算概要

III 2027年5月期 連結業績予想

IV 中長期の取組み

I 会社概要

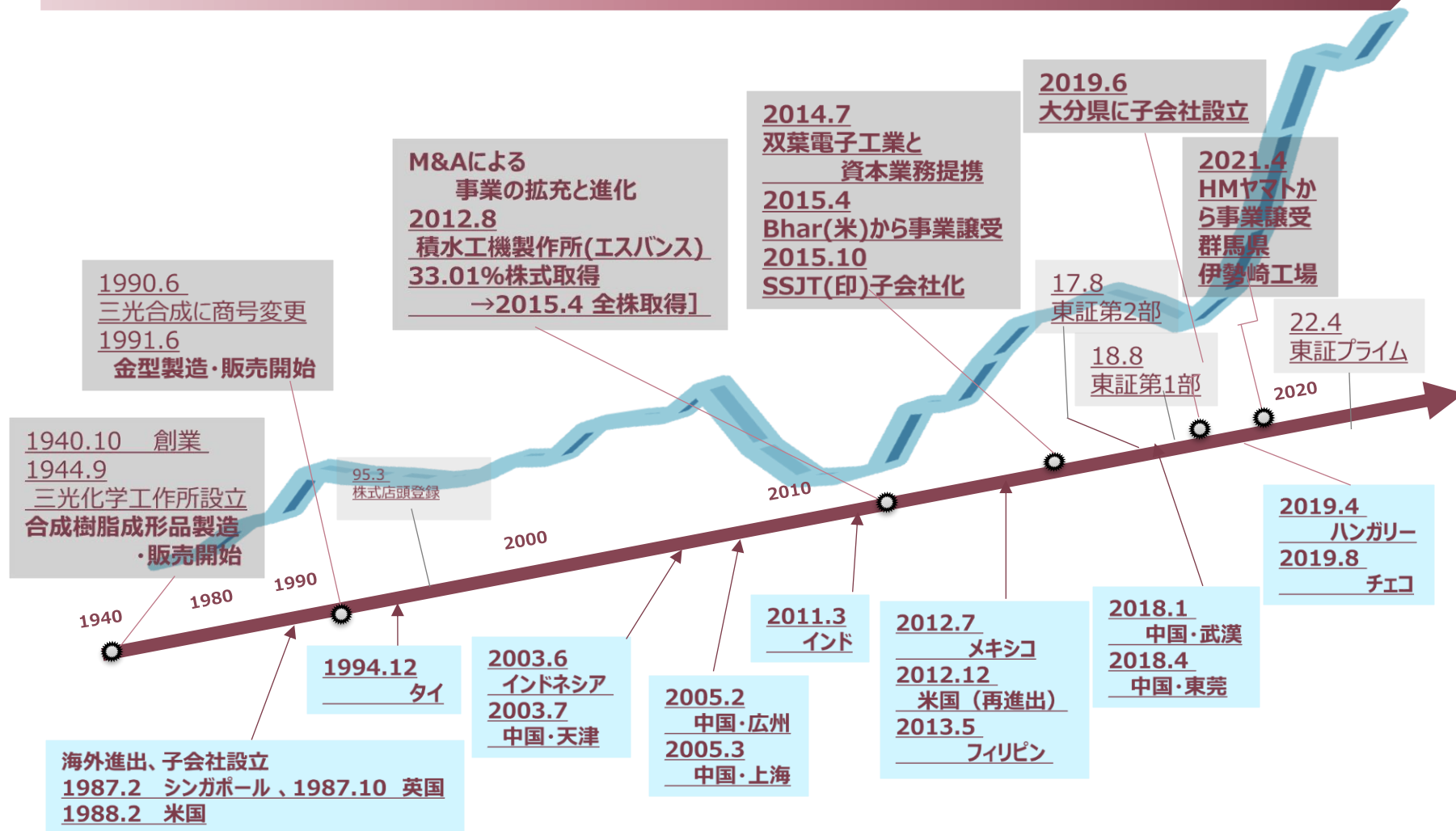
会社概要



社 名	三光合成株式会社（SANKO GOSEI LTD.）
代 表 者	代表取締役会長 黒田 健宗 代表取締役社長 久住アーメン
本 社	富山県南砺市土生新1200番地
資 本 金	4,008百万円
創 業	1940年10月12日
設 立	1944年 9月18日
従 業 員	単体：730名 連結：2,867名（2026年5月末現在）
事 業 内 容	■成形品事業 ・車両部門 ・情報・家電部門 ■金型事業



完成車メーカーのグローバル生産体制を支える不可欠な存在へ



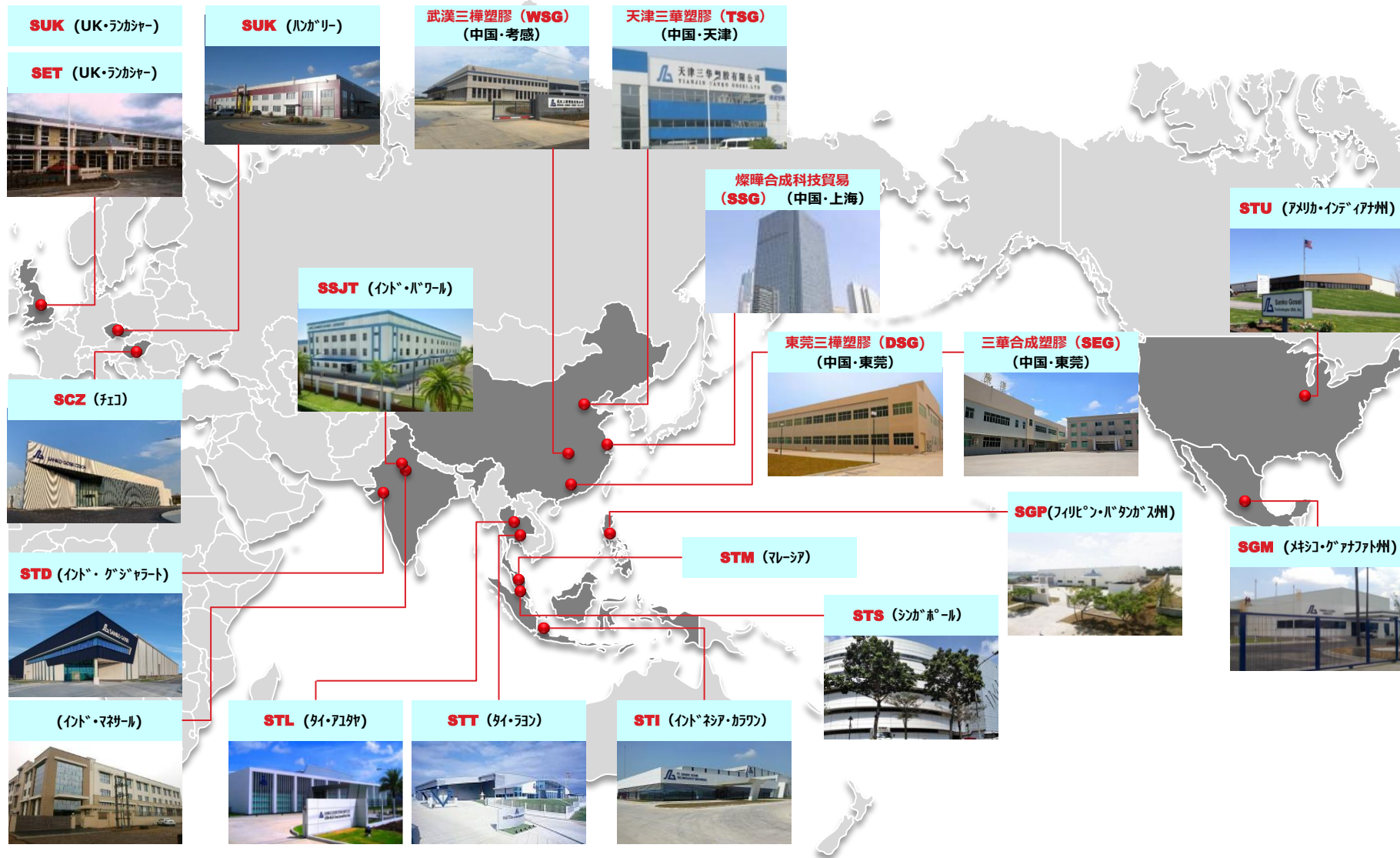
国内拠点 | 成形8工場 金型2工場 営業所5拠点



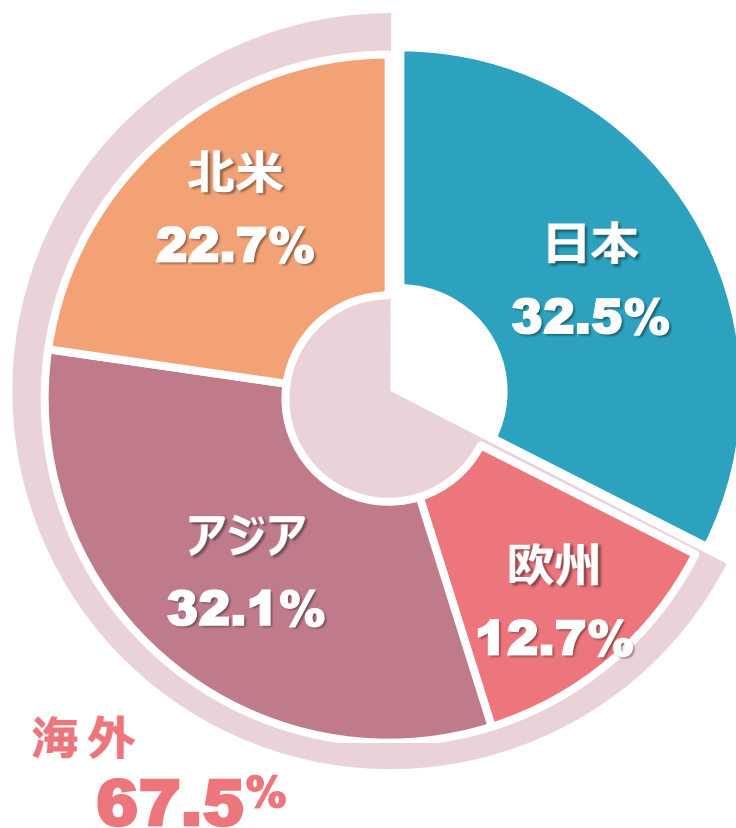
…成形工場
 …金型工場
 …営業拠点



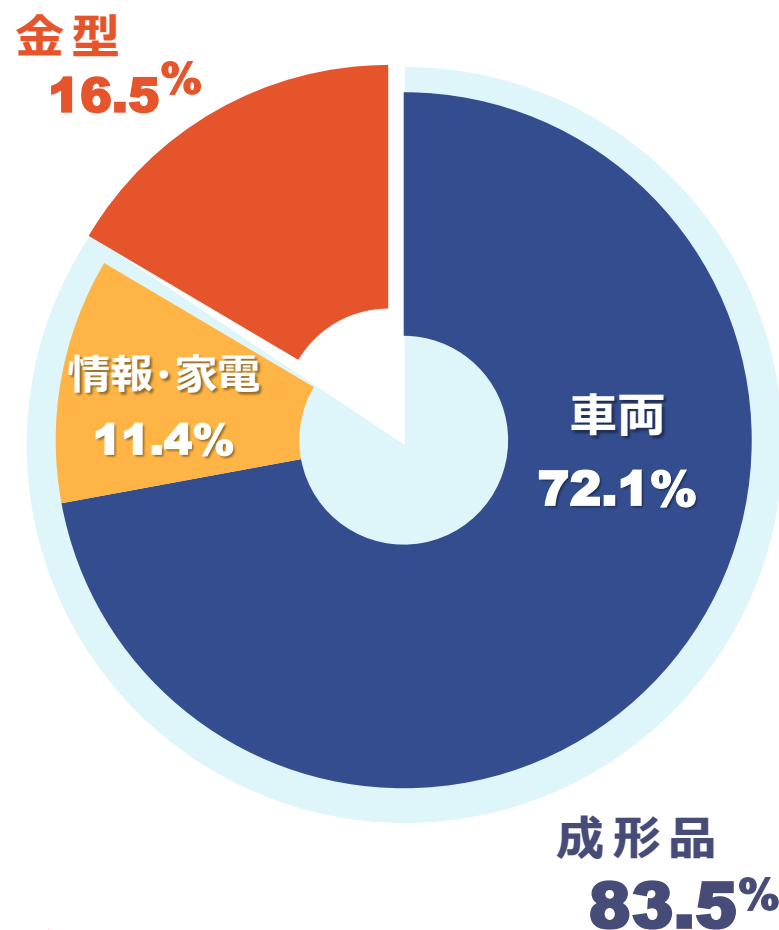
海外拠点 | 12ヶ国／17法人



地域別



事業部門別



※本資料中では、構成比の数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります



通常、部品メーカーが外注する **金型設計・製作部門を内包**
顧客ニーズを汲み取り大量生産に耐える金型を設計・製作
大量生産開始後の不具合発生時も即ソリューション実行

当社の製品生産フロー

通常、部品メーカーが外注する部分

顧客の
製造現場での
悩みとニーズ

製品設計

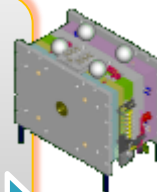
- ・ お客様へ駐在し設計対応

金型設計・製作

CAE解析

- ・ 86年国内草分けとして導入
- ・ 金型メーカーとして最長のレコード保持

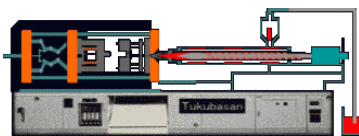
- ・ スタート段階から大量生産に耐える設計
- ...
- ・ 専業金型メーカーとの最大の違い



省力化機器製作



量産



品質管理



納品





Ⅱ 2026年5月期決算概要

2025年6月1日～2026年5月31日

2026年5月期 決算総括



- 諸物価の上昇や不安定な国際情勢、長期金利の上昇など依然として先行きが不透明な状況。その中で、高付加価値製品の受注と原価低減活動を積極推進し、前年比で売上高は増収、営業利益・経常利益は増益だったが、タイ子会社の和解関連費用を特別損失として計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益は減益。（売上高、営業利益、経常利益は過去最高）

● 売上高	979 億 79 百万円	前年同期比	7.6 %	↑
● 営業利益	70 億 91 百万円	前年同期比	25.4 %	↑
● 経常利益	63 億 51 百万円	前年同期比	22.3 %	↑
● 当期純利益	7 億 58 百万円	前年同期比	-80.3 %	↓

■ 地域別売上高	日 本	前年同期比	5.3 %	↑	318 億 17 百万円
	欧 州	前年同期比	2.6 %	↑	124 億 25 百万円
	ア ジ ア	前年同期比	6.2 %	↑	314 億 84 百万円
	アセアン	前年同期比	12.2 %	↑	194 億 83 百万円
	中国	前年同期比	23.5 %	↑	61 億 49 百万円
	インド	前年同期比	8.1 %	↑	58 億 52 百万円
	北 米	前年同期比	16.4 %	↑	222 億 52 百万円
■ 事業部門別売上高	成 形 品	前年同期比	7.6 %	↑	817 億 89 百万円
	金 型	前年同期比	7.5 %	↑	161 億 89 百万円

※本資料中では、「当期（又は四半期）純利益」の表記は「親会社株主に帰属する当期（又は四半期）純利益」を意味します

2026年5月期 損益状況



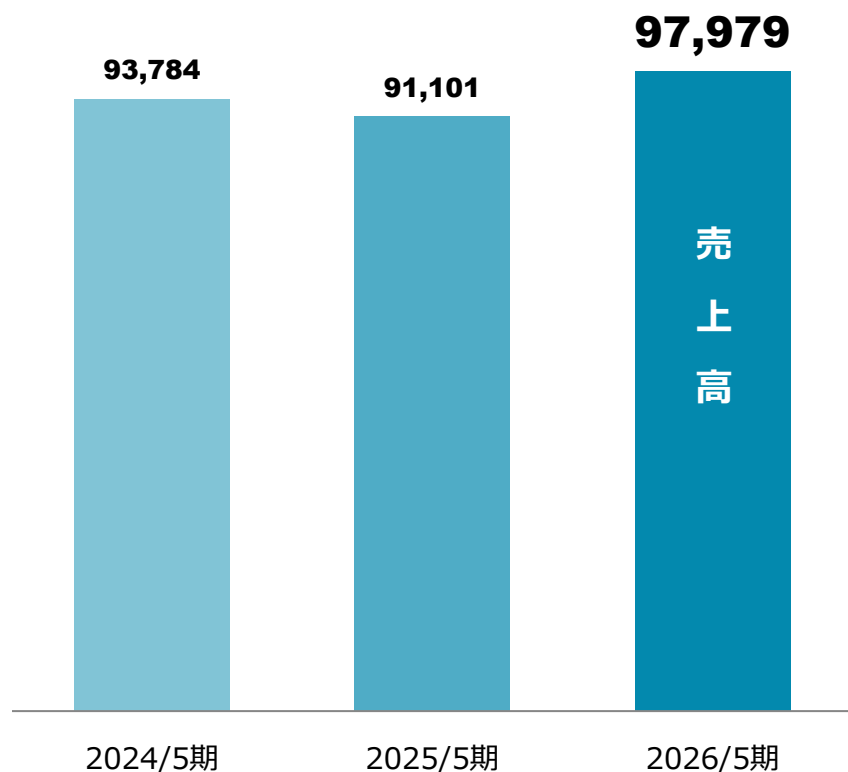
	2025年5月期 実 績		2026年5月期 実 績					
	金 額 (百万円)	売上高比 (%)	金 額 (百万円)	売上高比 (%)	前期比		対期初予想、進捗	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)	業績予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	91,101	—	97,979	—	6,878	7.6	94,000	104.2
売上原価	76,080	83.5	80,993	82.7	4,913	6.5	—	—
売上総利益	15,020	16.5	16,986	17.3	1,966	13.1	—	—
販管費	9,364	10.3	9,894	10.1	530	5.7	—	—
営業利益	5,656	6.2	7,091	7.2	1,435	25.4	6,100	116.3
経常利益	5,194	5.7	6,351	6.5	1,157	22.3	5,500	115.5
当期純利益	3,857	4.2	758	0.8	▲3,099	▲80.3	4,000	19.0
ROE	12.4%		2.3%		▲10.1pt			

売上高・営業利益・経常利益の推移



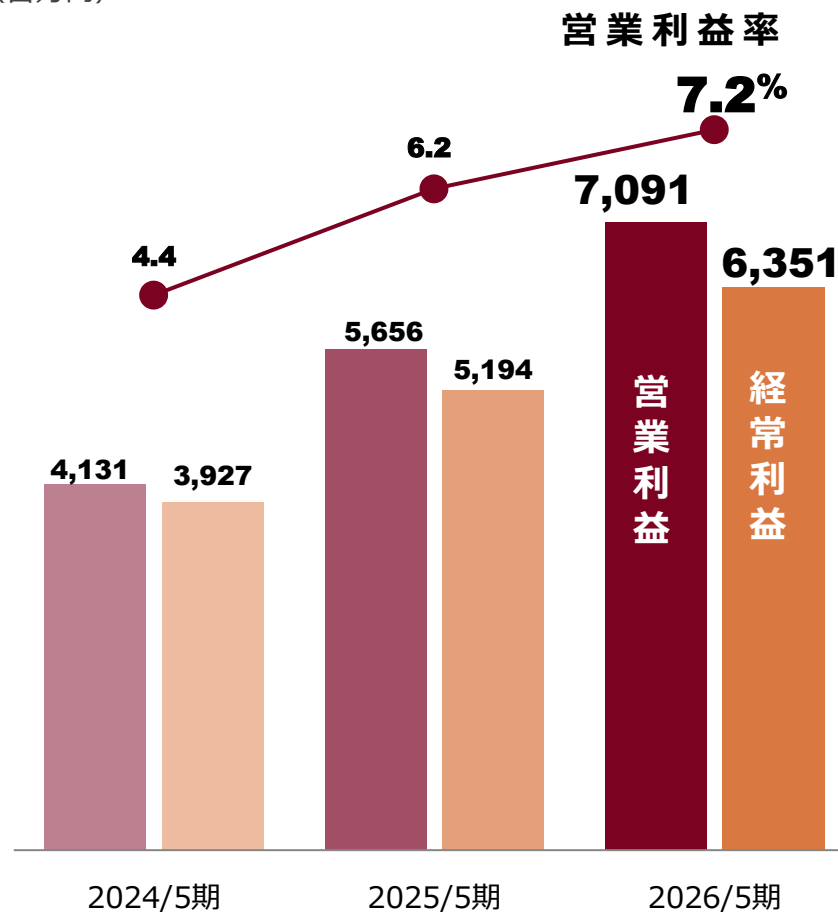
売上高

(百万円)



営業利益・経常利益／営業利益率

(百万円)

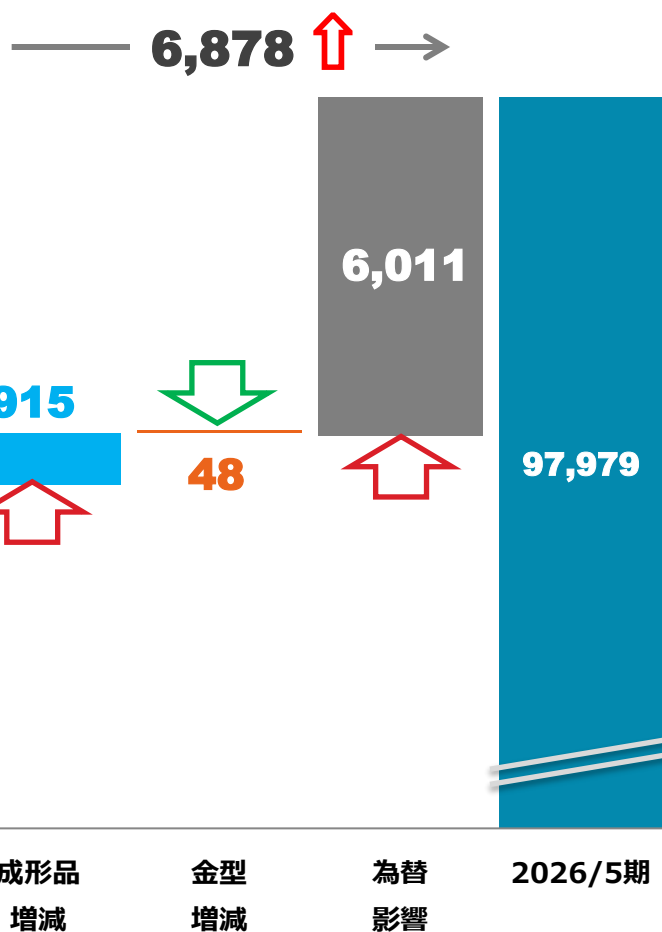


売上高・営業利益の増減要因分析



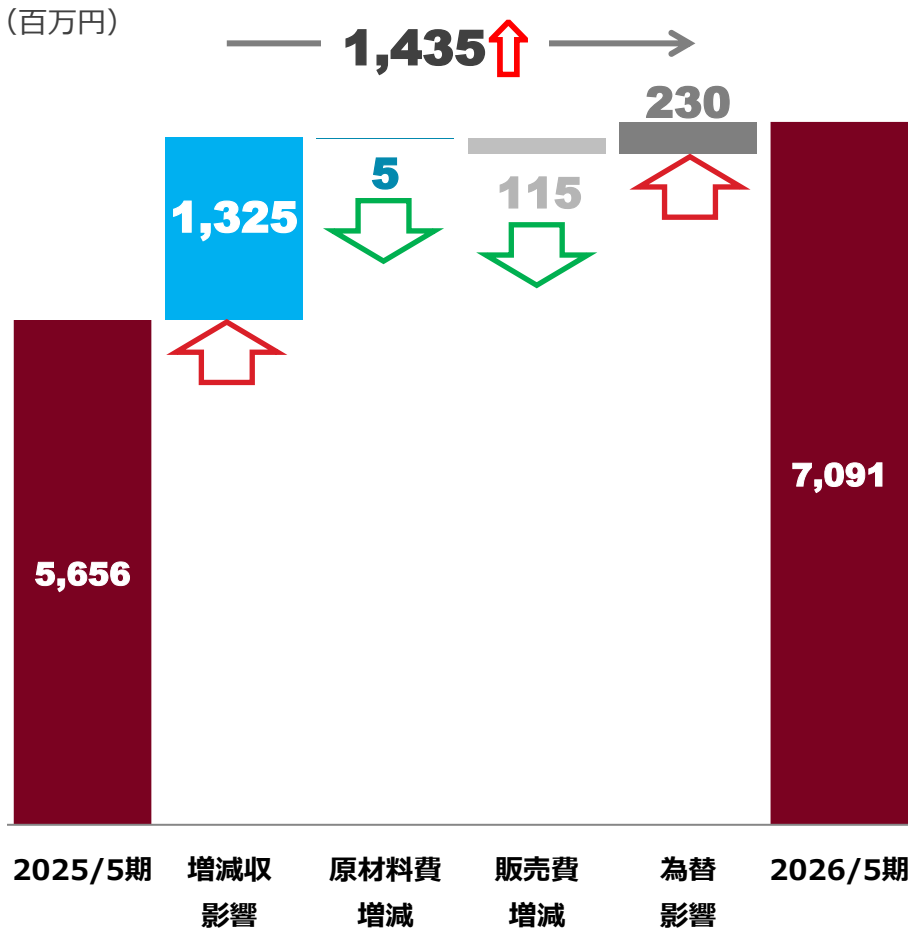
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)

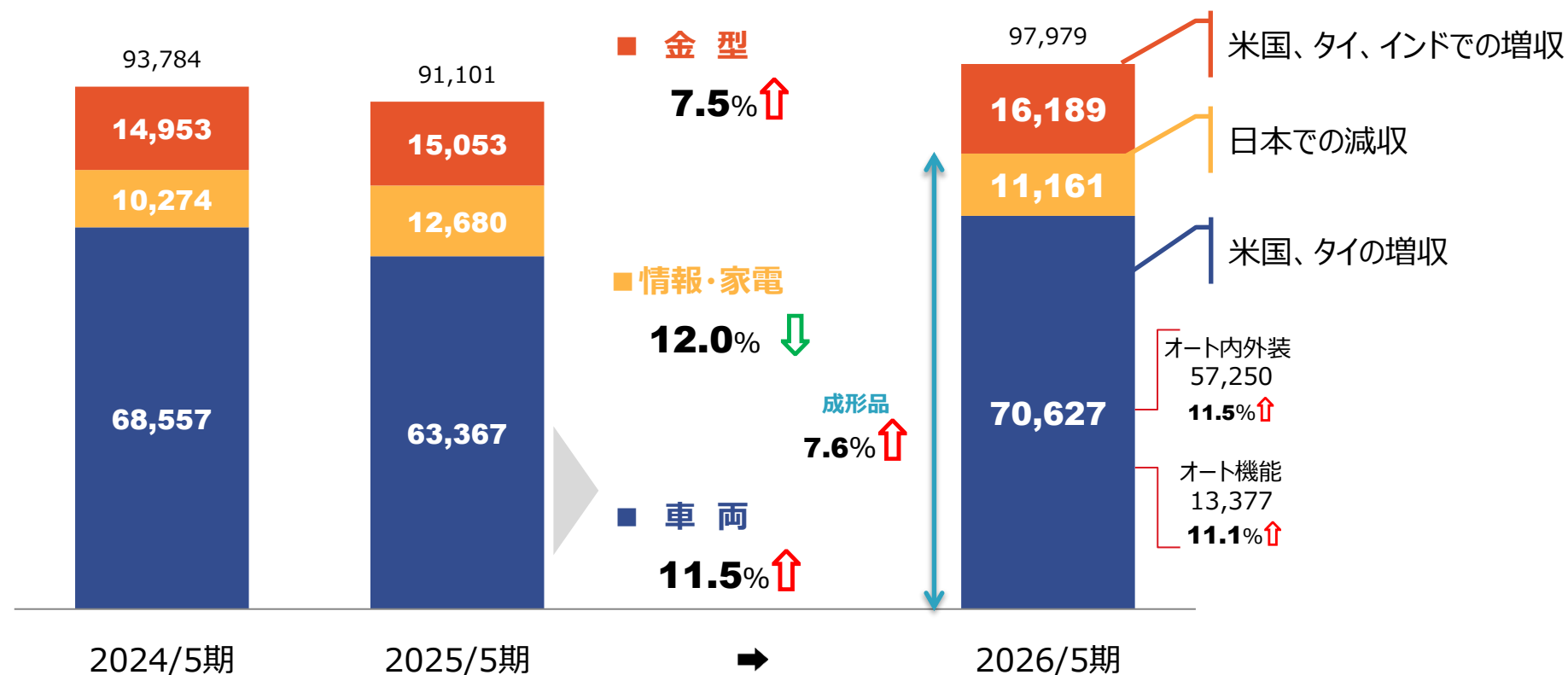


事業部門別売上高の推移



事業部門別売上高

(百万円)



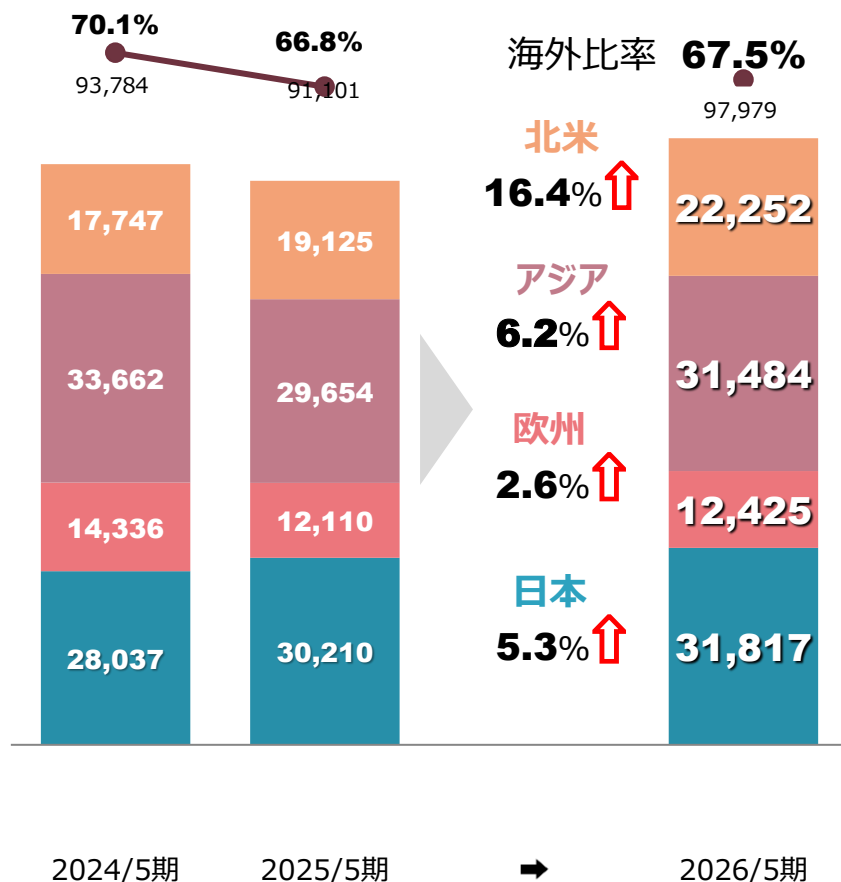
※本資料中では、各内訳数値の単位未満の端数処理の関係でその計と合計が一致しない場合や増減率の数値が一致しない場合があります

地域別売上高・営業利益の推移



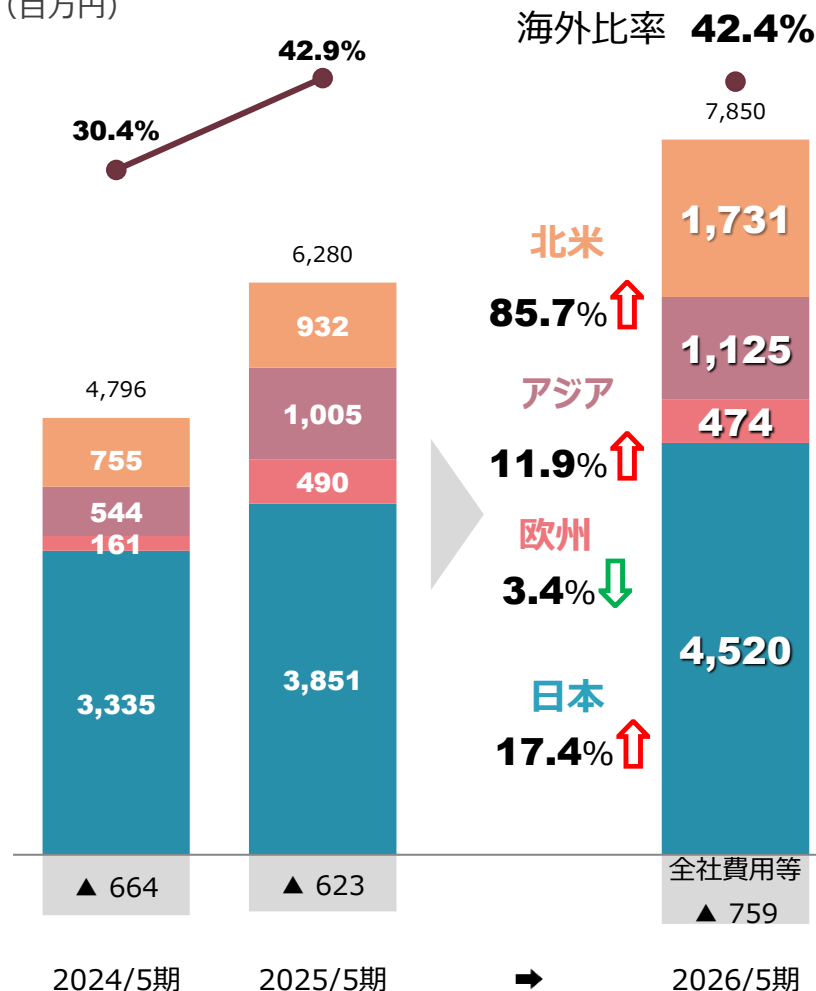
地域別売上高／海外比率

(百万円)



地域別営業利益／海外比率

(百万円)



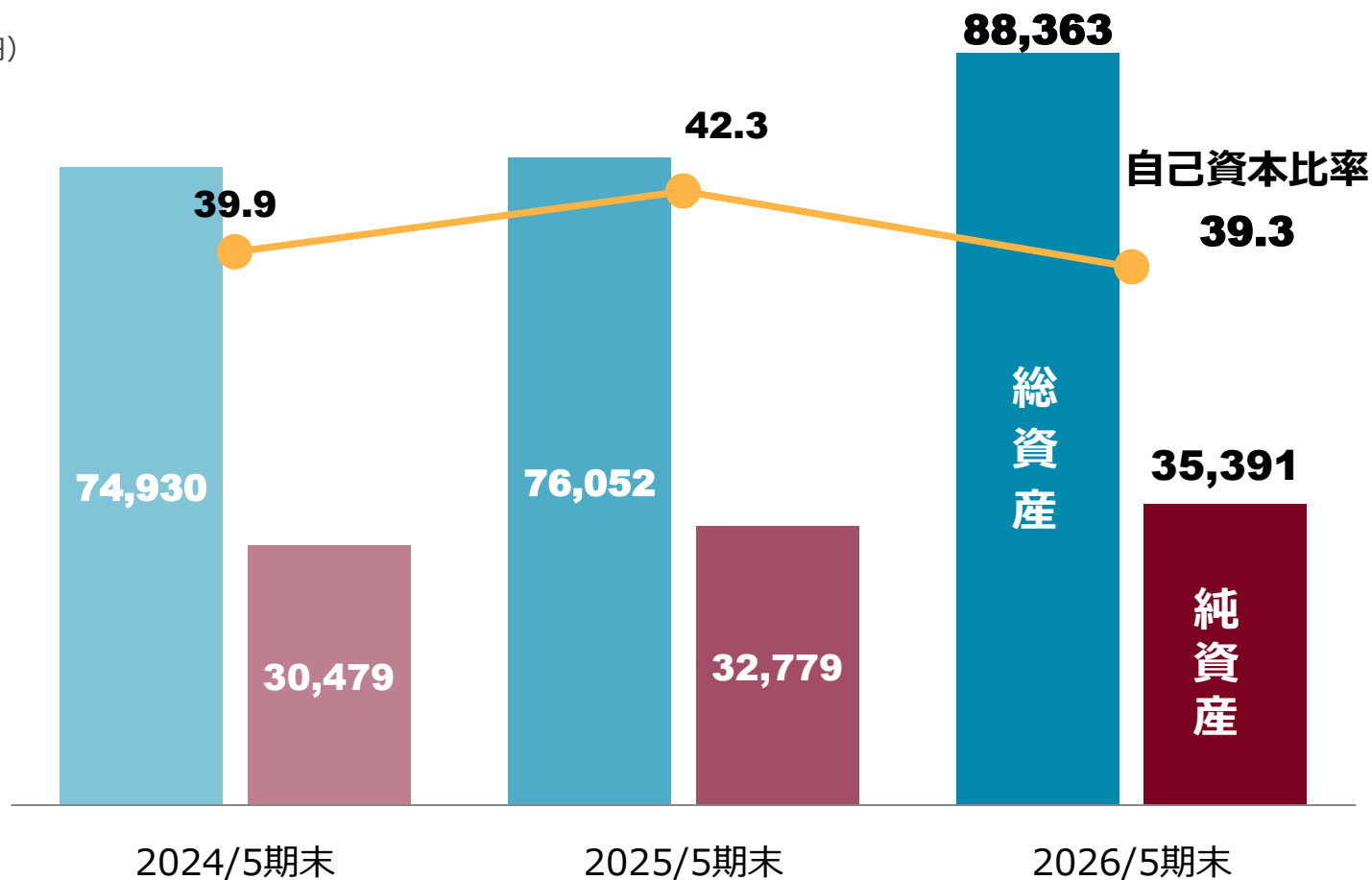
2026年5月期 財務状況



	2025年5月期末 2024.5.31		2026年5月期末 2025.5.31			
	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	前期末比増減額／主な増減要因 (百万円)	
■ 流動資産	40,097	52.7	46,481	52.6%	+6,384	現預金 売掛金 +2,925 +2,582
■ 固定資産	35,954	47.3	41,881	47.4%	+5,927	有形固定資産 +4,897
資産合計	76,052	100.0	88,363	100.0	+12,311	
■ 流動負債	26,180	34.4	31,114	35.2%	+4,934	和解関連費用引当金 +3,599
■ 固定負債	17,092	22.5	21,856	24.7%	+4,764	長期借入金 +4,152
負債合計	43,272	56.9	52,971	59.9%	+9,699	
純資産合計	32,779	43.1	35,391	40.1%	+2,612	
負債純資産合計	76,052	100.0	88,363	100.0	+12,311	

総資産・純資産／自己資本比率

(百万円)



2026年5月期 キャッシュ・フロー状況



	2025年5月期	2026年5月期		
	(百万円)	(百万円)	主なキャッシュ・インフロー／アウトフロー(百万円)	
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 8,566	+ 8,414	税前当期純利益	+ 2,607
			減価償却費	+ 4,317
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5,313	▲ 6,481	有形固定資産取得	▲ 6,248
フリー・キャッシュ・フロー	+ 3,253	+ 1,933		
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 984	+ 240	短期借入金	▲ 1,638
			長期借入金	+ 4,465
			リース債務返済	▲ 1,721
現金及び現金同等物の増減額	+ 2,070	+ 2,925		
現金及び現金同等物の期首残高	9,958	12,029		
現金及び現金同等物の期末残高	12,029	14,955		

Ⅲ 2027年5月期 連結業績予想

2026年6月1日～2027年5月31日

2027年5月期 業績見通し | 売上高過去最高を更新



- 地政学リスク等により、先行き不透明な状況が続くが、引き続き高付加価値製品、金型の受注活動を積極化するとともに、安定した収益構造の確保と経営体質の強化を図る。
売上高、利益で過去最高を更新し、増収増益を目指す。

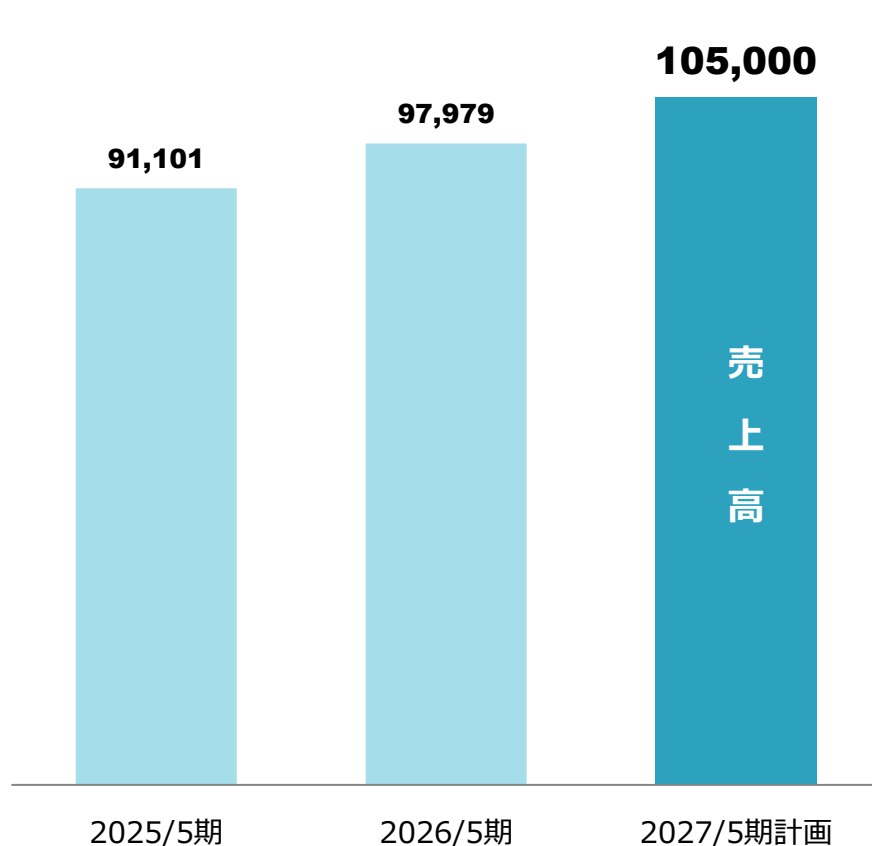
	2026年5月期 通期実績		2027年5月期 通期計画			
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	97,979	—	105,000	—	+7,021	+7.2
営業利益	7,091	7.2	7,900	7.5	+809	+11.4
経常利益	6,351	6.5	7,100	6.8	+749	+11.8
当期純利益	758	0.8	4,500	4.3	+3,742	+493.7
1株当たり 当期純利益	24. ⁸⁷ 円	—	147. ⁶¹ 円	—	+122. ⁷⁴ 円	—
1株当たり 配当金	28. ⁰⁰ 円	—	32. ⁰⁰ 円	—	+4. ⁰⁰ 円	—
ROE	2.3%		10～11%（予想）			

売上高・営業利益・経常利益の見通し



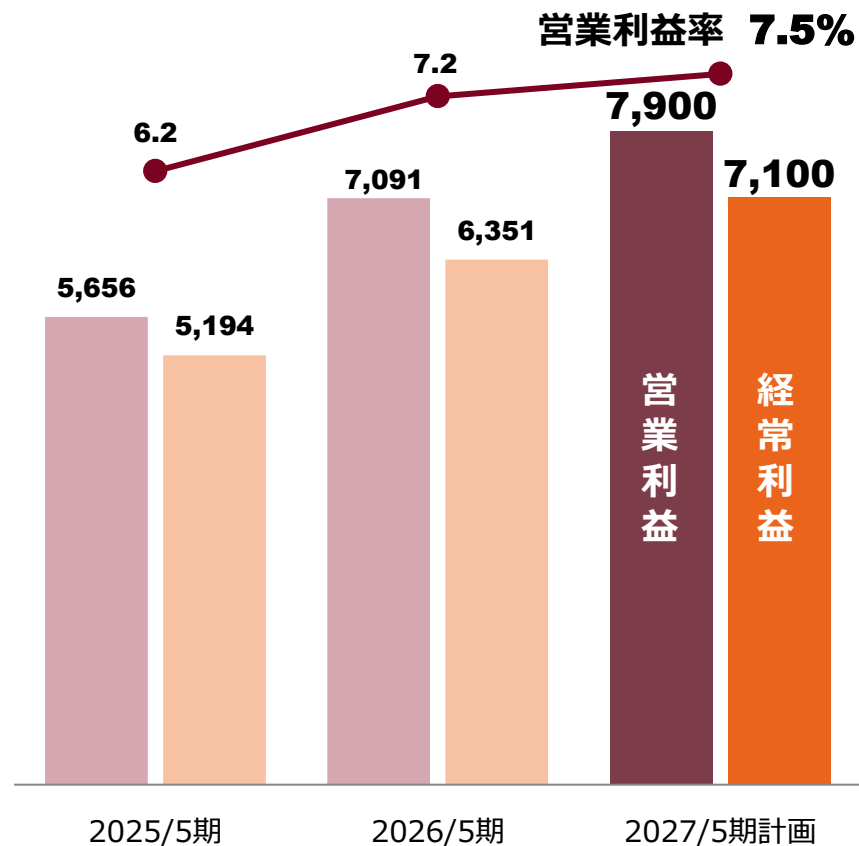
売上高

(百万円)



営業利益・経常利益／営業利益率

(百万円)

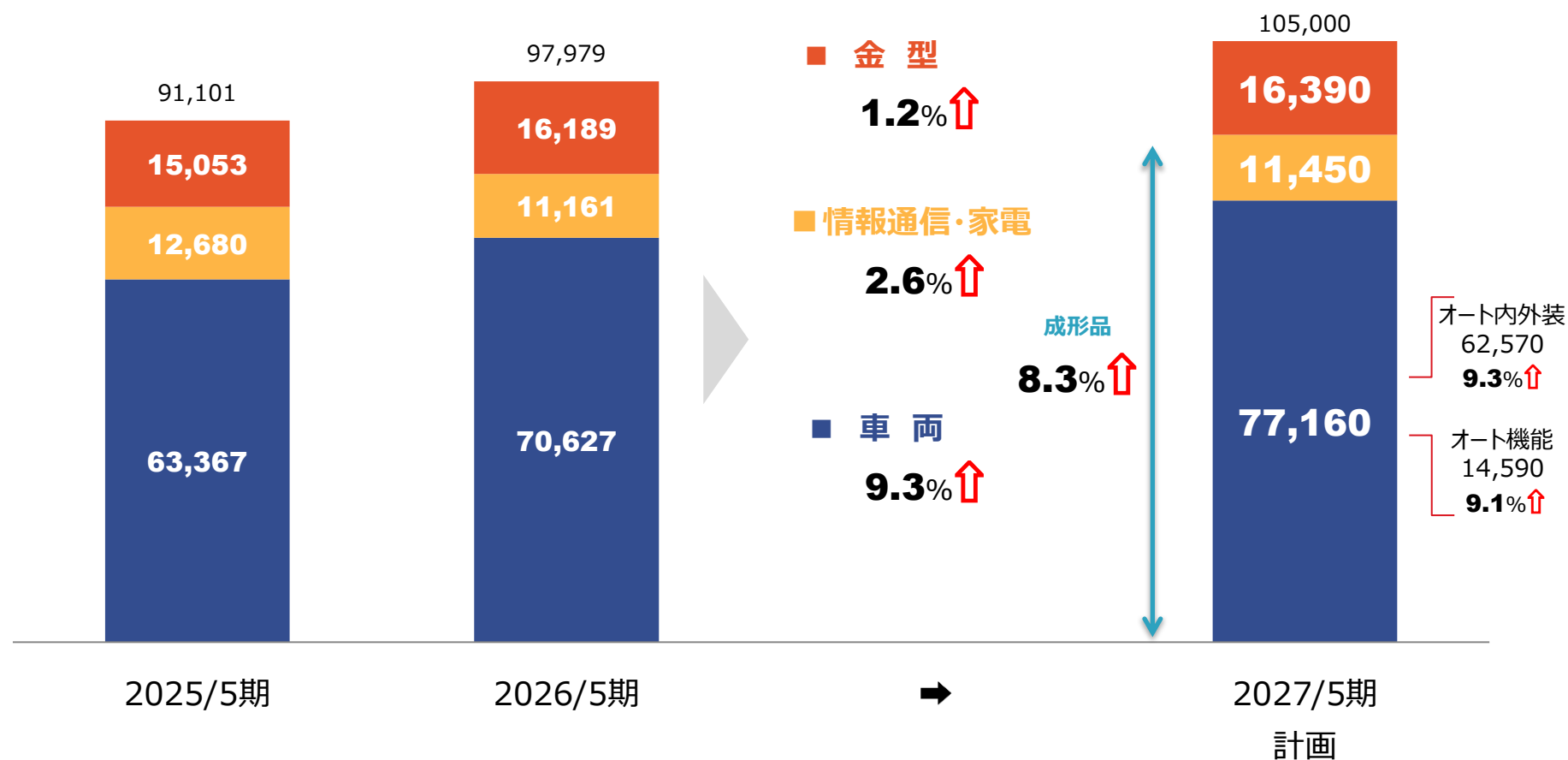


事業部門別売上高の見通し



事業部門別売上高

(百万円)

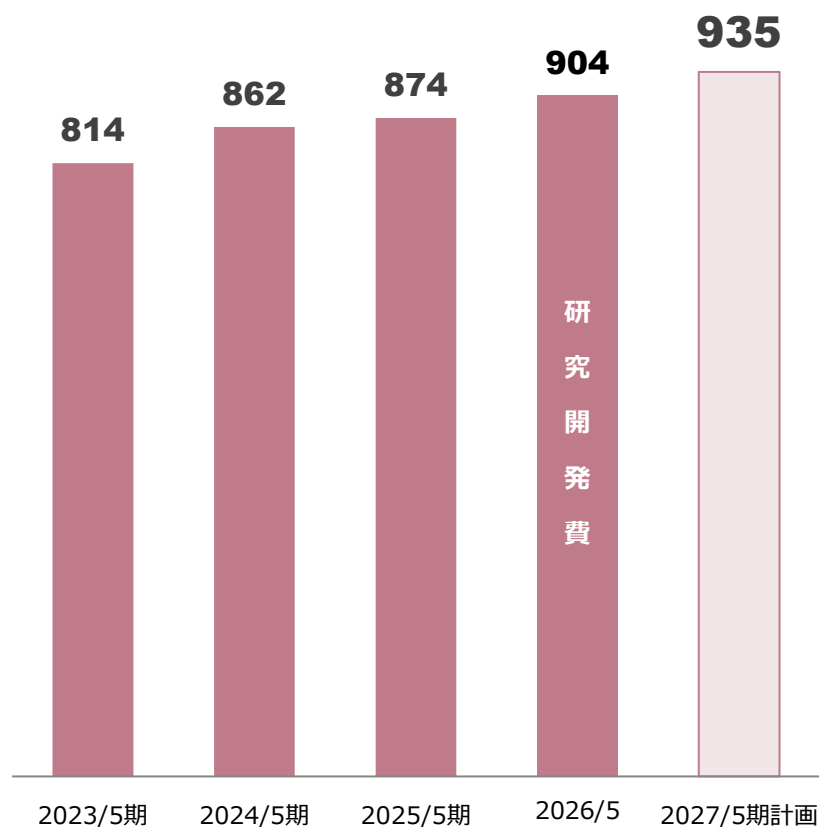


研究開発費、設備投資額・減価償却費の見通し



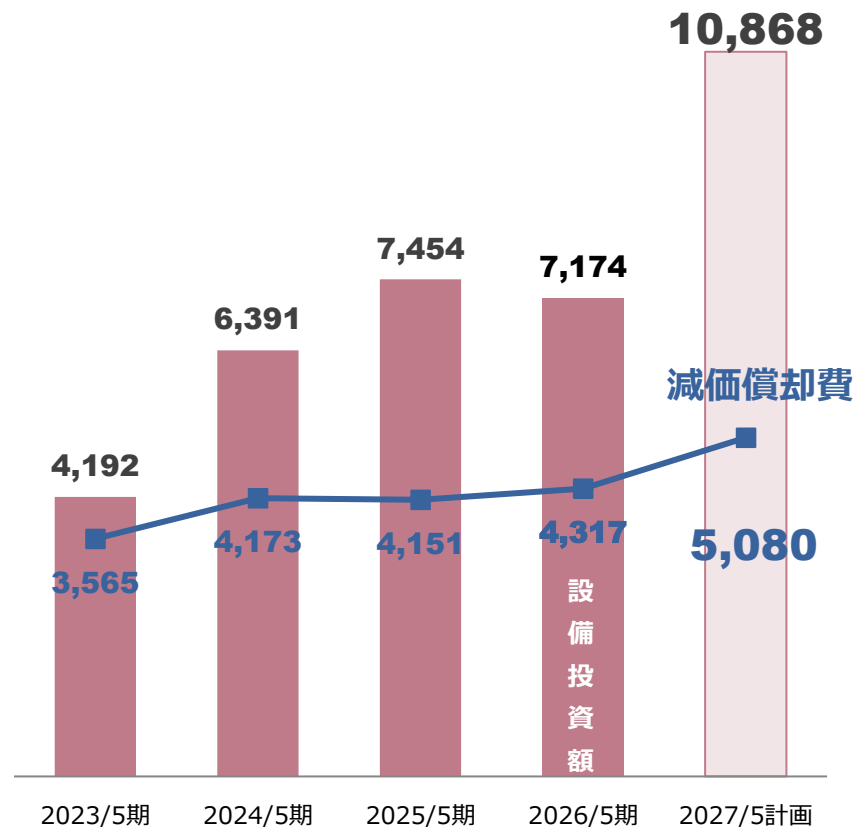
研究開発費

(百万円)



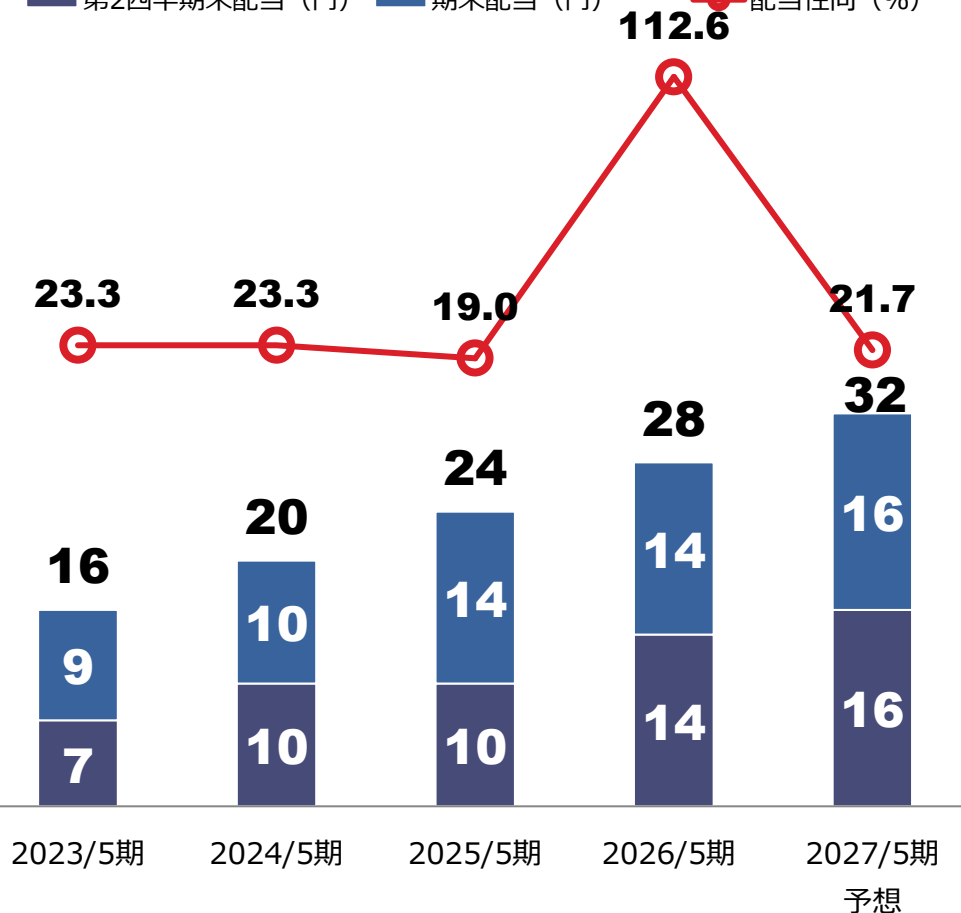
設備投資額・減価償却費

(百万円)



年間配当金の推移

■ 第2四半期末配当（円） ■ 期末配当（円） ● 配当性向（%）



配当基本方針

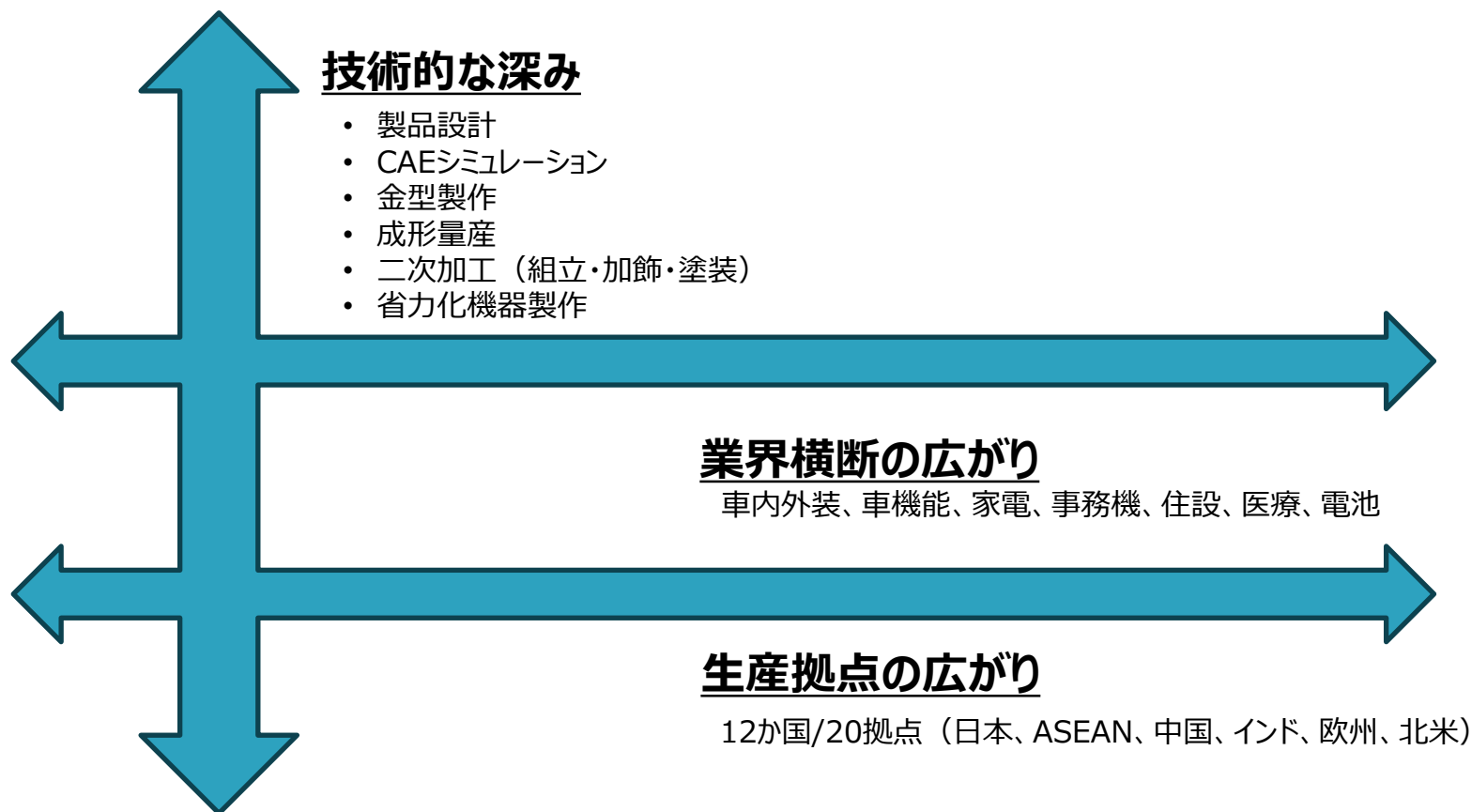
安定的な配当を継続していくと同時に、業績に応じ積極的に株主に還元

内部留保資金

競争力の維持・強化や経営基盤拡充のため、設備投資や開発活動に充当

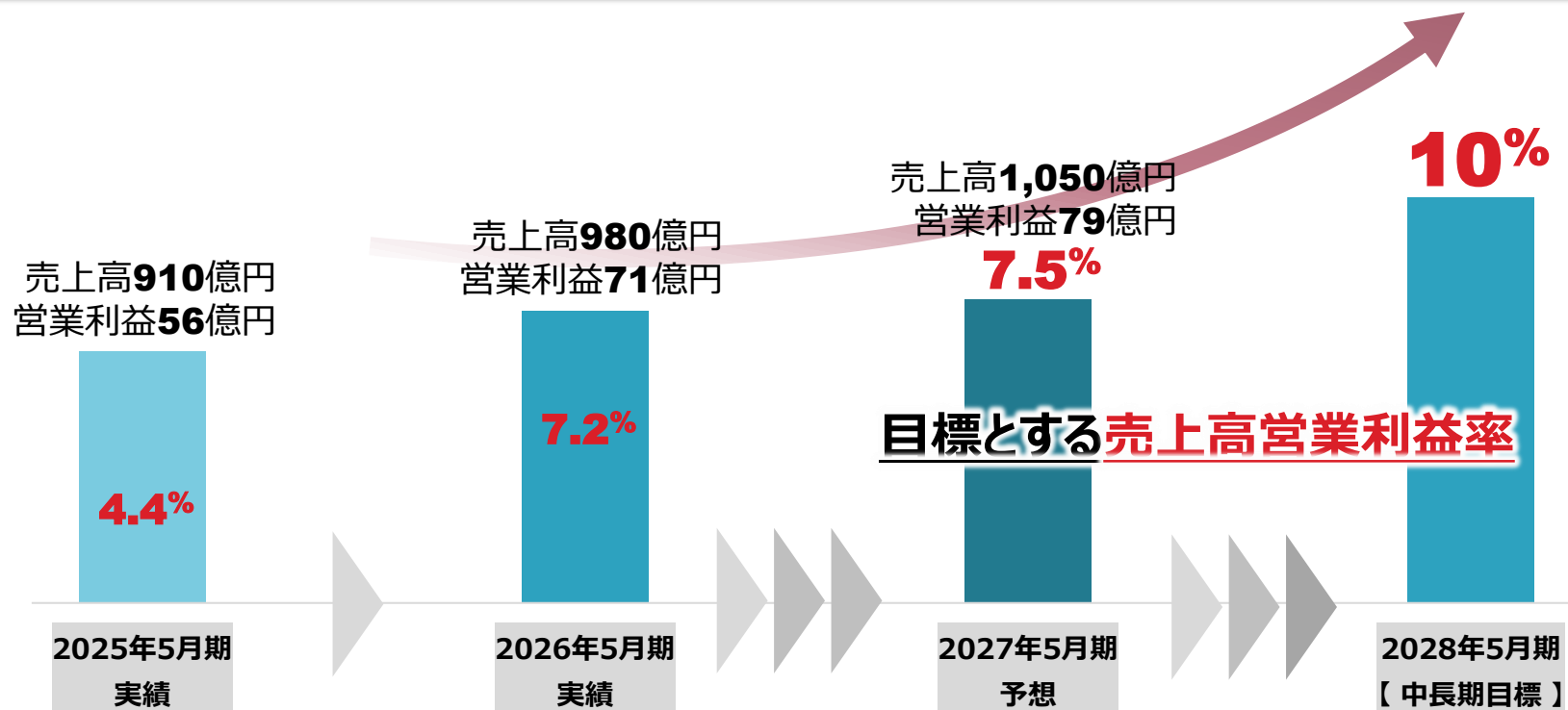
IV 中長期の取組み

三光合成の強みを生かし、持続的な増収増益で、ステークホルダーの期待に応える強みは、三光合成ほど“深みと広がりがあるプラスチック専門メーカー”は世界に存在しないこと Only One



目標 10・10・10 “トリプル10”

売上高 **1,000**億円・営業利益 **100**億円・営業利益率 **10%**



三光合成の強みはグローバル（リスクの分散）

● 特定拠点に集中せず、グローバルで稼ぐビジネスモデル

- ・2026年5月期は、日本・北米・タイが牽引し、インド売上は好調
- ・アセアン（タイ以外）：やや苦戦
- ・欧州：苦戦
- ・中国：大苦戦

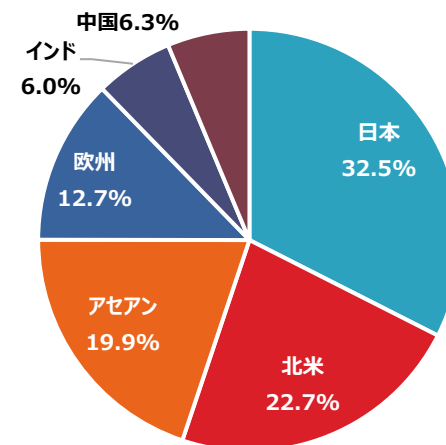
※ 苦戦するも全拠点で営業利益黒字

● 日本をモデルにしてグローバル展開（生産性2倍）

- ・日本の工場は海外ベンチマークを目指す。

● グローバル倍率

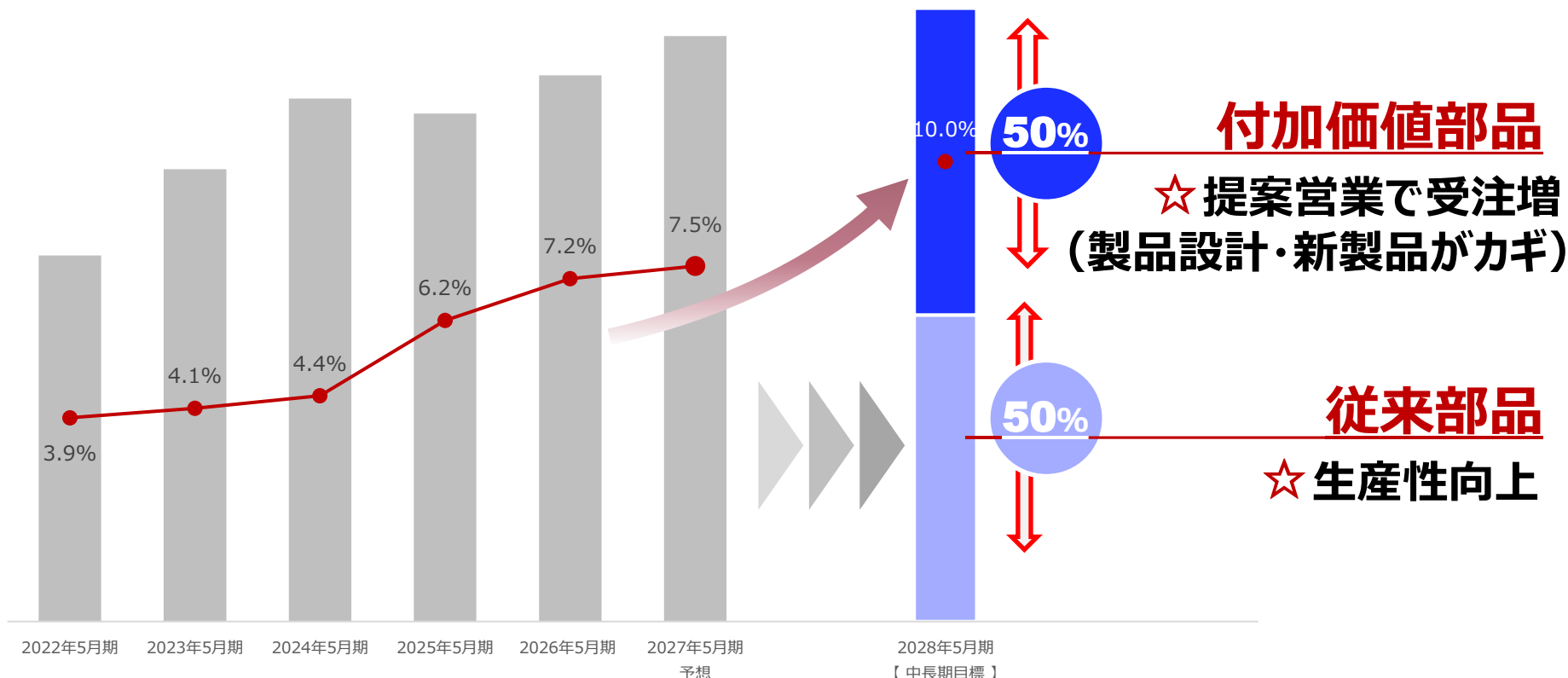
- ・横のつながりで受注を獲得する



売上比率（2026年5月期）
売上980億

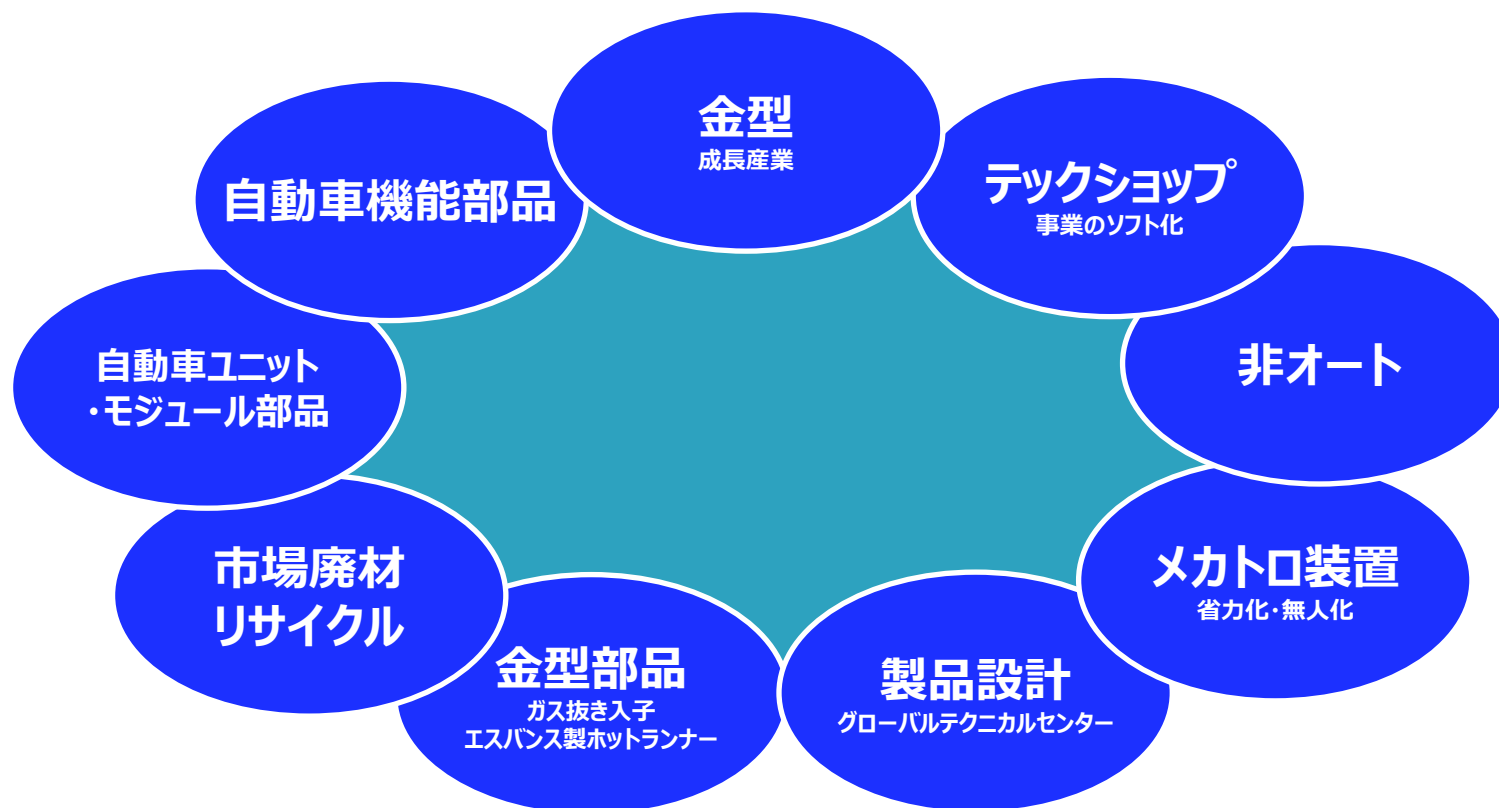
バランスのとれた売上構造

三光合成の強みは着実な成長力



コロナ明け以降従来部品と付加価値部品の合わせ技で着実に稼ぐ力を伸ばしています

三光合成の強みはプラスチック分野での“総合技術力”





品質を三光合成の強みにすべく活動中

三光合成国内
をモデル工場にする

三光合成
量産立ち上げ
ノウハウ項目

品質を
三光合成のブランドにする

ブランドのグローバル展開

連結の売上増・利益増



1. アメリカ生産能力拡張

北部インディアナ増設

南部アラバマ周辺M&A検討中

3. チェコ生産能力拡張

建物拡張

2. インド生産能力拡張

グジャラート増設

デリー新工場

チェンナイ新拠点

4. 伊勢崎外装塗装ライン新設

中・大物外装部品対応・塗着率向上の
新鋭設備導入

Topic | 1.アメリカ生産能力拡張



① 北部 | 既存インディアナ工場拡張

- 投資総額：約**70億円**
- 期 間：2025年4月 ▶ **2026年7月**
- 建屋拡張：10,000m² ▶ **21,000m²**
- 設備増強：大型成形機追加等
EVからHEV主体へ



◆ インディアナ工場拡張中
SANKO GOSEI TECHNOLOGIES USA, INC.



② 南部 | アラバマ周辺でM&A【検討中】

- 状 況：複数候補から選択中
- 目 的：南部での供給・顧客対応力拡張
- 投資想定：**80億円程度**
- 完了計画：**2026年/年内目途**

● 投資総額： 約 **80** 億円

● 対 象： グジャラート / デリー近郊 / チェンナイ近郊
(2027年1月完了) / (2027年8月完了) / (2026年9月完了)



① グジャラート | 既存工場拡張

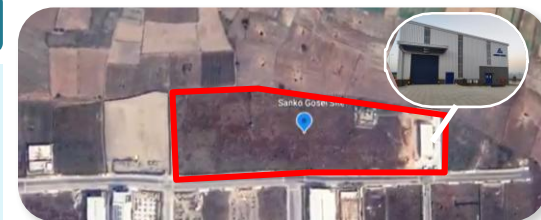
- 内 容：既存グジャラートの工場拡張
- 規 模：新倉庫 **5,000m²**
- 主要投資：大型成形機2台 / 外装塗装ライン



①グジャラート工場

② デリー近郊 | 新工場建設

- 内 容：ジャジャールで新工場建設
- 規 模：成形&金型工場 **14,500m²**
- 主要投資：大型成形機1台 / 機能品精密成形機2台 / 内装華飾加工機 / ソフトバッド加工ライン



②ジャジャール土地

③ チェンナイ近郊 | 生産委託拠点新設

- 内 容：スリシティーで生産委託拠点を新設
- 対 象：家庭用・業務用エアコン部品生産



③スリシティー委託生産

- 投資総額： 約 **40** 億円
- 期 間： 2026年4月着工 ▶ **2028年7月量産開始**
- 生産キャパシティ拡大

建屋面積

成形機台数

- 建屋： + **10,000 m²**
(**2.7×**)
- 成形機： + **10 台**
(**2.7×**)

16,000m²

16台

6,000

6

現在

拡張後

現在

拡張後



◆ SANKO GOSEI Czech, s.r.o.

- ターゲット：自動車メーカー（BEV・HEV 新規生産対応）
- 生産品目：内装・外装部品（「2色成形」を含む）

Topic | 4.伊勢崎外装塗装ライン



- 投資総額： 約 **10** 億円
- 期 間： 2025年3月着工 ▶ **2027年11月量産開始**

- 投資内容： 外装塗装ライン新設
(塗着率向上に資する新鋭設備を導入)
ベルガン近接塗装

- 対 象： 国内車メーカー向け 中・大物外装部品
に対応



◆伊勢崎工場（外装塗装ライン新設）

- 期待効果：

品質

外観品質の安定化
／不良・手直し低減

原価

塗着率向上 = 材料ロス低減
／工数削減

供給

中・大物対応強化
／量産立上げの再現性向上

- 将来展開： 伊勢崎で確立した仕様・運用を、将来的に国内外拠点へ横展開

10,000人以上/月の閲覧者
ーテックショップを学習した
「AIチャットボット」開設

通常の閲覧者に加え
チャットボット相談増加



○具体的な受注（ガス抜き入れ子）



発注の窓口



特注品
対応相談



ラインナップ確認



特注加工

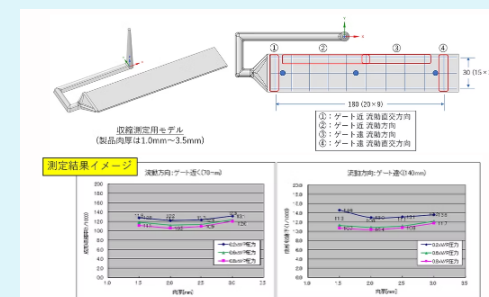
発注

ガス抜き入れ子の技術情報
(部品の技術内容、導入効果等)

○技術相談→技術情報売りに向けて



ファンの金型作成技術相談



樹脂物性（成形収縮率）測定データの販売



■富山県SDGs宣言

基本理念「自然との調和に努める」 | 私たちは、当社の製品が全世界で使用されているという認識のもとに、地球環境と地域社会との共生を目指し、環境保全に配慮し、改善を継続する事業活動を行います。

取組目標

社員のモラル向上、精神面鍛錬、そしてお客様へのおもてなしにつながる活動の継続

Action

全員参加のトイレ掃除

海外、国内各工場において
経営層から社員まで全員参加のトイレ清掃で
世界一綺麗なトイレを目指す。



取組目標

プラスチック製品や樹脂材料を海や陸に廃棄しない

Action

成形不良品のリサイクル

廃棄向け樹脂製品を粉砕し
再生樹脂材料として使用しリサイクル率を高めていく。
最終処分場までのトレーサビリティにより
ライフサイクルの視点で責任を持つ。



取組目標

人権を尊重し、社員のダイバーシティを推進

Action

ダイバーシティを推進

女性、高齢者、障がい者、外国人の柔軟な雇用と
働きやすい職場環境を維持改善する。



■カーボンニュートラルに向けた取組み

- ① 日常改善による省エネを推進します。
- ② **再生可能エネルギーを活用します。**
- ③ 生産技術の開発、導入による省エネを推進します。



- ④ 樹脂材料、リサイクルを推進します。
- ⑤ 不良率低減を含む廃棄物削減を目指します。
- ⑥ 工場および関連施設の緑地化を推進します。

■再生可能エネルギーの受電開始

- ・化石燃料の全体に占める割合：国内工場での電力使用量総合計の40%を達成（2030年目標を前倒しで達成）
- ・北陸電力が販売する再生可能エネルギーを活用したメニュー「かがやきGREEN」へ加入

富山工場の屋根に太陽光パネルを設置



◆太陽光発電による受電
富山工場、熊谷工場、
SUK（英国）、STT（タイ）

◆グリーンでんき全量使用
富山工場、テクニカルセンター、熊谷工場、
伊勢崎工場

■コンプライアンス研修の推進

社内：階層別研修の充実を図り、会社全体の教育カテゴリーを考察し拡大実施中。

外部：1次サプライヤーに向けて研修を実施中。

■女性活躍推進に向けた取組み

当社は令和5年度の「とやま女性活躍企業」に認定されました。

「とやま女性活躍企業」とは、企業の成長とウェルビーイング（真の幸せ）の実現に向けて、女性が活躍する県内企業等を県が認定する制度です。



選 定 基 準

- ① 女性の管理職比率 → 産業ごとの全国平均値以上
- ② 時間外労働等の時間数 → 各月ごとに全て45時間未満
- ③ 女性活躍推進に向けた取組み → 具体的な取組みを1つ以上行っている
- ④ 企業内の男女共同参画を進めるチーフ・オフィサーを設置している ほか



◆三光合成株式会社

南砺市土生新1200番地

女性の活躍へ向けた中期的な視点で人材育成をすすめると共に、男性の育児休暇取得や、働くお母さんの、育児を含めたワークライフバランスに注力している会社です。



常時雇用労働者数 979人

女性管理職比率 11.6%
女性管理職数 13人

資本コストや株価を意識した経営の実現



■PBR1倍超に向けた取り組み

現状分析

PBRは0.7倍と、依然としてPBR1倍を下回っている状況（5月末時点）
ROEは過去10年平均で約7%、その一方でPERは約10倍で推移

今後の取組み・方針

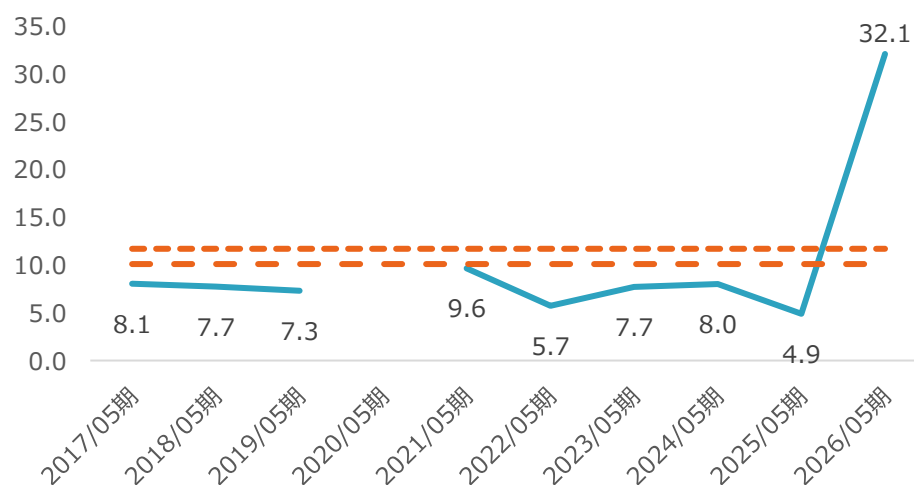
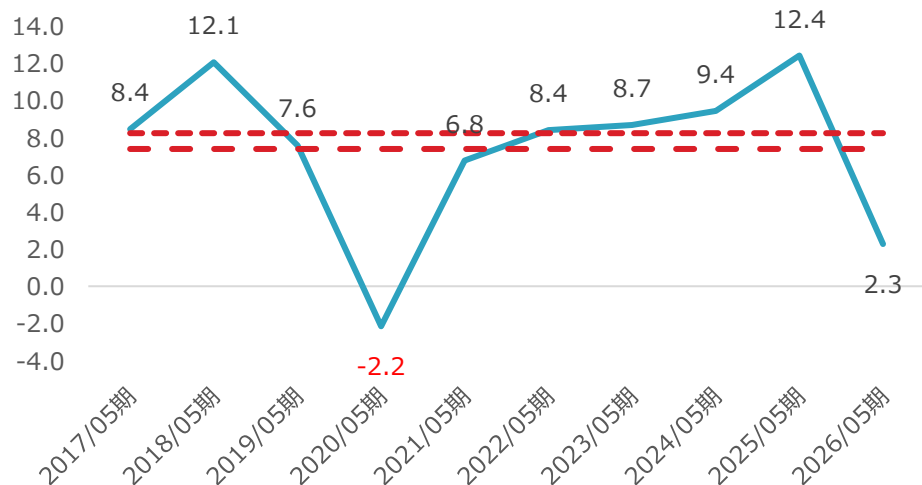
ROE：中期目標の営業利益率10%を達成することで、ROE向上を目指す
PER：IR活動の強化により、PERの改善を目指す

ROE

PER

— ROE — ROE10年平均 - - - ROE5年平均

— PER — PER 10年平均 - - - PER5年平均





このプレゼンテーションで述べられている三光合成株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。